

1. 職名・氏名 教授・平井 一芳

2. 学位 学位 博士（医学）、専門分野 公衆衛生学、授与機関 福井大学、授与年月 2006年6月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 臨床栄養学（2単位）2年生（2017年度~2019年度） オムニバス講義	
②内容・ねらい 食物の摂取から消化、吸収、体内での代謝にいたる栄養学の生理・生化学的な基礎について説明する。そのうえで、生活習慣病予防・改善のための食生活および高齢者や病気に罹患した患者の臨床栄養管理について理解し、それを説明できるよう促す。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 プロジェクターを用いてスライドに写真や図を盛り込んだり、動画を利用したりして複雑な体内代謝や具体的な臨床栄養（栄養管理法や食事療法、非経口栄養法など）について、できるだけ解りやすく解説する。その都度、リアクション・ペーパー（講義内容の理解度や質問、感想などをA5用紙に自由記述）を配布し、その回答より理解度を確認し、特に、理解度の悪い内容等については、補助資料を配布したり、次回の授業の一部を使って再度解説したりして理解の補完に努める。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 産業保健論（1単位）3年生（2017年度~2019年度） オムニバス講義	
②内容・ねらい 産業保健の歴史と現状および労働衛生管理について概説し、働く人を対象とする、産業保健師の役割を示す。事業所や労働衛生機関などの産業現場における産業保健師の活動と、事業主や従事者との関わりについて説明する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 産業保健師の活動について、さまざまな現場での具体的事例や近年の身近なトピックなどを取り上げるなどして産業保健についての関心を喚起する。毎回、リアクション・ペーパー（講義内容の理解度や質問、感想などをA5用紙に自由記述）を配布し、その回答より理解度を確認し、特に、理解度の悪い内容については、補助資料を配布したり、次回の授業の一部を使って再度解説したりする。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 公衆衛生学（2単位）1年生（2017年度~2019年度）	
②内容・ねらい 物理・化学・生物学的環境および社会環境の健康への影響について概説する。疾病予防、健康保持・増進、健康寿命の延伸を目指した組織だった社会を通じた保健活動や個人、家族さらには地域、国レベルまでのさまざまな健康支援の在り方について説明する。ライフステージおよび地域、学校、職域といった生活の場で行われている公衆衛生活動について説明する。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公衆衛生活動の意義と社会・経済・行政との関りについて資料や新聞記事等から、特に身近な福井県の問題を多く取り上げるなどして具体的関心を喚起する。内外の公衆衛生活動について具体的事例を提示し、グローバルな視点で現状や課題についても理解を深め、公衆衛	

<p>生マインドを涵養する。リアクション・ペーパー（講義内容の理解度や質問、感想などをA5用紙に自由記述）を配布し、その回答より理解度を確認し、特に、理解度の悪い内容については、補助資料を配布したり、次回の授業の一部を使って再度解説したりする。</p>	
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
疫学（2単位）2年生	（2017年度~2019年度）
②内容・ねらい	<p>将来の保健師、看護師としての実践活動、教育研究活動の場面で健康事象（疾病など）と、それらの関連要因を明らかにするために疫学の基礎を解説する。疫学的な考え方を涵養する。科学的方法論としての疫学の概念・方法を説明し、疫学により示される科学的エビデンスや研究方法論を看護や保健活動の場に活かす可能性について理解を促す。様々な疫学研究方法の特徴を解説する。</p>
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<p>演習を盛り込み、集団の健康状態を把握することの重要性と疫学で用いられる基本的な指標の理解を促す。</p>
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
保健統計学（2単位）2年生	（2019年度）
②内容・ねらい	<p>集団における健康科学の方法論について概説する。科学論の基礎、確率、統計、疫学、人口統計について説明し、記述統計、統計的推論の手法を解説する。人口・疾病統計や臨床研究など、看護や保健活動の場でどのように活かすかを教授する。</p>
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<p>集団の健康状態を把握することの重要性と保健統計で用いられる基本的な指標の理解を促し、保健統計データをどのように活かすかを教授する。</p>
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
導入ゼミ（1単位）1年生	（2017年度~2019年度）
②内容・ねらい	<p>「福井県の健康長寿」を題材に自分の興味や関心のあるものからテーマを設定し、「健康長寿」について理解を促し探索させる。情報収集、プレゼンテーション、レポート作成の基本的技術を養成する。また、発表と討論を行い論理的思考力、傾聴能力、意思伝達能力を養成する。</p>
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<p>学生が「自ら学び、考え、行動する力」を養えるように「受動型学習」から「能動型学習」を重視する。</p>
①担当科目名（単位数）	主たる配当年次等
福祉のまちづくり論（2単位）1年生	（2017年度~2019年度） オムニバス講義
②内容・ねらい	<p>実際に福祉のまちづくりを展開している場に赴き、講義と地域踏査から生活課題や社会資源を把握させる。また事前学習で福祉のまちづくりに必要な要素について説明し、事後学習で事前学習・フィールドワークをふまえてグループごとに成果を報告させる。地域で生活する人々の現状と課題を理解させる。地域包括ケアシステムの仕組みと、その担い手や推進方法を理解させる。プレゼンテーションのスキルや、自分で考え、発案し、行動する力を養成する。</p>
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<p>グループワークを導入し、学生が自ら考え、問題解決に主体的に取り組む「能動型学習」を重視する。</p>

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養特講 D：福井を学ぶ（2 単位） 1~3 年生（2017 年度~2019 年度） オムニバス講義
②内容・ねらい 福井県立大学で学び始めた新生が、福井という地域の特性について幅広く学べるよう、福井が有する多様な資源を世界的な視点のなかに位置づけ、地域における大学が果たす役割を理解させる。自らが位置する福井という地域の基本的知識を習得させ、地域に関連した研究関心の基盤を形成させるとともに、グローバル化した多様な価値を適切に評価しうる自己の立脚点を確立させる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 「福井県の健康長寿」をテーマに取り上げ、福井の特性（県民性、社会性など）の理解を促し、自らの属する地域社会と県民の健康について涵養できることを目指す。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 環境保健学特論（2 単位） 大学院生 （2018 年度, 2019 年度） オムニバス講義
②内容・ねらい 環境保健学について概説し、特に公衆衛生の有効な理論や技術の活用について理解を促し、各自の研究課題に沿った研究方法論の学習など、アカデミックな素養の基礎的トレーニングを行う。情報（データ）を多面的に見て、その背景から分析にいたるまでの根拠を論理的に考察する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 研究を進める上での必要な基礎知識として、健康指標、保健統計、疫学について理解を深めるべく仮想データなどを用いて計算演習を行う。また、データ解析における統計手法のサポートを行う。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント学特論（4 単位） 大学院生 （2018 年度） オムニバス講義
②内容・ねらい 社会が求めるヘルスケアサービスの提供のために、保健医療福祉の政策を概観し必要な組織の構築や他組織と連携し協働するための看護理念を揚げそれを具現化することができる能力を高める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 社会保障の概念（社会保障制度改革の基本的考え方、医療・福祉・介護に関する制度改革・効率化）を鑑みて看護現場の現状をデータ化・分析し、組織目標から具体的な事業へ考察できることを重視する。
<b>(2)非常勤講師担当科目</b>
①担当科目名（単位数） 開講学校名 保健体育Ⅱ（1 単位） 1 年生 （2017 年度~2019 年度） オムニバス講義 公立若狭高等看護学院
②内容・ねらい 運動生理学の基礎理論を概説し、健康と運動の関わりについて説明する。健康保持・増進のための運動の必要性を理解させるとともに、看護への活かし方を体験的に学ばせる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 実習を取り入れて健康保持・増進のための具体的な健康づくりのための運動の仕方の体得と、自らが実践する能力を習得させる。さらに、運動習慣を獲得させる。
④本学における業務との関連性 対象が本学と同じ看護学科の学生なので、本学学生との共通点や相違点など学生の特質を知ることができ、今後の教育の参考となる。
①担当科目名（単位数） 開講学校名

<p>運動生理学 (2 単位) 2 年生 (2017 年度~2019 年度) 仁愛女子短期大学</p> <p>②内容・ねらい 運動時にからだの中で起こる変化について解説し、運動と栄養の関係や運動による生活習慣病の予防に関して説明する。また、健康づくりのための運動の意義を理解させる。安静時のからだの仕組みと機能、運動時にその機能がどのように変化するのか説明する。運動と発育発達・加齢について説明する。運動前、運動中、運動後の栄養の摂取方法を説明する。健康の維持・増進および疾病予防のための運動処方について理解させる。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 適宜、手軽で身近な運動の実演をして、日常生活の中での運動の動機づけや身体活動の必要性について理解を促す。</p> <p>④本学における業務との関連性 本学学生との共通点や相違点など学生の特質を知ることができ、今後の教育の参考となる。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 開講学校名 学校保健学 (2 単位) 1 年生 (2018 年度, 2019 年度) 福井大学</p> <p>②内容・ねらい 近年の環境の変化により、学校保健の課題は感染症、生活習慣病、いじめ、虐待、不登校、薬物乱用、性の逸脱行動、犯罪、災害等の健康危機など複雑多岐にわたっている。近年の子どもの生活習慣(食事、運動、休養など)やからだの健康問題(肥満、体力低下など)について全国と福井県の実態を提示するなど詳しく解説する。また、子どもの健康づくり推進にあたってのヘルスプロモーションの理念を踏まえ、学校、家庭および地域社会の連携・協力による取り組みについて説明する。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学校保健学の意義と地域社会との関りについて、資料や新聞記事等から身近なトピックをとりあげるなどして具体的関心を喚起する。学校保健活動について具体的事例を提示し、理解を促す。</p> <p>④本学における業務との関連性 本学学生との共通点や相違点など学生の特質を知ることができ、今後の教育の参考となる。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 開講学校名 衛生学及び公衆衛生学 (2 単位) 1 年生 (2017 年度, 2019 年度) 福井大学</p> <p>②内容・ねらい 物理・化学・生物学的環境および社会環境の健康への影響、個人や家族さらには地域、国レベルまでのさまざまな健康支援の在り方について概説する。疾病予防、健康保持・増進、寿命の延伸を目指した組織だった社会を通じた保健活動について理解させる。また、ライフステージおよび地域、学校、職域といった生活の場で行われている公衆衛生活動について説明する。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公衆衛生活動の意義と個人・家族・地域・学校・職域との関りについて、資料や新聞記事等から、特に、身近な福井県の話題を多く取り上げるなどして具体的関心を喚起する。内外の公衆衛生活動 について具体的事例を提示し、グローバルな視点で現状や課題についても理解を促し、公衆衛生マインドを涵養する。</p> <p>④本学における業務との関連性 本学学生との共通点や相違点など学生の特質を知ることができ、今後の教育の参考となる。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 開講学校名 医学医療と社会 2 (2 単位) 4 年生 (2018 年度, 2019 年度) 福井大学 オムニバス講義</p> <p>②内容・ねらい 健康、障害と疾病の概念を概説する。社会構造(家族、コミュニティ、地域社会、国際化)と健康・疾病との関係を説明する。環境と健康・疾病との関係(環境と適応、病因と保健行</p>

動)を説明する。各ライフステージの健康問題・健康増進管理を説明する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 公衆衛生活動の意義と個人・家族・地域・学校・職域との関りについて、資料や新聞記事等から、特に、身近な福井県の話題を多く取り上げるなどして具体的関心を喚起する。内外の公衆衛生活動について具体的事例を提示し、グローバルな視点で現状や課題についても理解を促し、公衆衛生マインドを涵養する。
④本学における業務との関連性 本学学生と医学生の共通点や相違点など学生の特質を知ることができ、今後の教育の参考となる。
(3)その他の教育活動
1.新入生オリエンテーション合宿参加 福井県立芦原青年の家(2017年度,2019年度) 学生とのコミュニケーションを図った。
2.福井しあわせ元気国体2018(第18回全国障害者スポーツ大会.2018) 当大学看護福祉学部の学生の当該ボランティア活動の現場(県営陸上競技場)にて激励を行った。

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 1.Climatotherapy in Japan: a pilot study, Hitomi Kanayama, Yukinori Kusaka, Takayoshi Hirai, Hiroyuki Inoue, Yuko Agishi & Angela Schuh, Int J Biometeorol, ;61; 2141-2143. 2017, DOI:10.1007/s00484-017-1418-x 2. Effects of movement music therapy with a percussion instrument on physical and frontal lobe function in older adults with mild cognitive impairment: a randomized controlled trial, Nobuko Shimizu, Tomohiro Umemura, Masahiro Matsunaga & Takayoshi Hirai, Aging & Mental Health, DOI: 10.1080/13607863.2017.1379048 3. An interactive sports video game as an intervention for rehabilitation of community-living patients with schizophrenia: A controlled, single-blind, crossover study, Shimizu N, Umemura T, Matsunaga M, Hirai T, PLoS ONE 12(11): e0187480. 2017 4. Biology of the vernix caseosa: A review, K, Nishijima, M, Yoneda, T, Hirai, K, Takakuwa, T, Enomoto, The journal of obstetrics and gynaecology research, ;45(11); 2145-2149. 2019.11
②著書
③学会報告等 1.Interventions to help the rehabilitation of patients with schizophrenia living in the community: Use of a virtual reality sports game, International Conferences on Community Health Nursing Research symposium.(U.K), Nobuko Shimiz, Tomohiro Umemura, Matunaga Masahiro, <u>Takayoshi Hirai</u> (2016.9) 2.Effects of Movement Music Therapy on the Cognitive Function of Elderly Individuals with MCI p15, The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Community Health Nursing in Busan, Nobuko Shimiz, Tomohiro Umemura, Matunaga Masahiro, <u>Takayoshi Hirai</u> (2016.9) 3.職域におけるメタボリックシンドローム発症の生活習慣因子の影響-縦断研究(7年間)-, 日本産業衛生学会北陸甲信越地方会総会, <u>平井一芳</u> , 梅村朋弘, 田村太朗, 佐藤一博, 日下幸則, 第59回大会(2016年10月) 4.幼児期の運動に対する態度・意欲と現在の生活状況が小学高学年の身体活動に及ぼす影響, 日本公衆衛生学会, <u>平井一芳</u> , 梅村朋弘, 日下幸則, 第75回大会(2016年10月) 5.北陸での地域住民を対象とした短縮版・気候療法プログラム, 北陸公衆衛生学会, 金山ひとみ, <u>平井一芳</u> , 井上博行, 山本博文, 日下幸則, 第44回大会(2016年11月) 6.遊びを交えた運動介入が小学校高学年の身体活動量に及ぼす影響(2年間の追跡調査), 日本公衆衛生学会, <u>平井一芳</u> , 梅村朋弘, 日下幸則, 第76回大会(2017年10月)

<p>7.介護予防対象高齢者への鳴子を使用した Movement Music Therapy(MMT)の前頭葉機能への効果, 日本認知症予防学会, 清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, <u>平井一芳</u>, 第7回大会 (2017年9月)</p> <p>8.軽度認知症高齢者の社会生活面と認知機能との関連, 日本認知症予防学会, 清水暢子, 梅村朋弘, 松永昌宏, <u>平井一芳</u>, 山田恭子, 望月美也子, 加藤真弓, 長谷川昇, 第7回大会 (2017年9月)</p> <p>9.職域におけるメタボリックシンドローム発症の生活習慣因子の影響, 平成29年度更新必修講座及び健康運動指導者研究交流会静岡大会, <u>平井一芳</u>, (2017年11月)</p> <p>10.小学校高学年を対象に遊びを交えた運動介入が中学1年次の身体活動量に及ぼす影響, 日本衛生学会, <u>平井一芳</u>, 梅村朋弘, 第89回大会 (2019年2月)</p> <p>11. 福井市在住(都市部・山間部・沿岸部)65歳以上の高齢者におけるフレイルの探索的解析, 日本公衆衛生学会, <u>平井一芳</u>, 第78回大会 (2019年10月)</p>
④その他の公表実績
(2)学会活動等
<p>学会でのコメンテーター、司会活動 第73回日本体力医学会全国大会 一般口頭発表座長 (2018年9月7日)</p> <p>学会での役職など 日本体力医学会北陸地方会 副理事長 (2015年~現在) 第73回日本体力医学会全国大会 実行委員会委員 (渉外委員長) (2016年4月~2018年9月)</p> <p>学会・分科会の開催運営 第73回日本体力医学会全国大会 (2016年4月~2018年9月)</p>
(3)研究会活動等
<p>①その他の研究活動参加</p> <p>1.運動疫学会 2.福井スポーツ健康科学研究会 3.福井体育研究会</p> <p>②その活動による成果</p> <p>1.産・官・学に於ける保健・医療・福祉関係者等および地域住民への情報提供 2.県内の医学・教育系大学の教員をはじめ、小・中・高の教員、医療従事者、運動・栄養指導者、などとの情報交換</p>
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
<p>1. 2014年度~2019年度 文部省科学研究費補助金. 基盤研究(C) 一般. 500万円 研究代表者 3. 2018年度~2020年度 学内戦略的課題研究推進支援. 180万円 研究分担者 4. 2018年度 学内KF枠研究費. 16.3万円 研究代表者 5. 2019年度 学内KF枠研究費. 10.3万円 研究代表者</p>

## 5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
<p>①国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県健康づくり推進協議会委員 「健康ふくい21」計画推進部会委員 福井県健康管理協会評議員会評議委員</p>

児童・生徒の体力向上推進委員会委員 福井県スポーツ推進審議会委員 福井県すこやか長寿センター運営委員会委員 福井市建築審査会委員
②国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加 NPO 法人日本健康運動指導士会福井県支部長：単位認定健康運動指導士研修会を開催、自治体主催の健康づくり事業に参画、自治体等の依頼を受け健康運動指導士の派遣
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内の）企業等での活動 三崎医院（福井市）：患者への運動処方、カウンセリングおよび運動指導（週1回）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）
1991年8月に健康運動指導士の資格を取得し、現在まで、地域の保健・医療・福祉施設、民間病院、学校などで、健康づくり活動（健康運動教室・健康支援事業など）に取り組んできた。 （以下参照） 健康フェア2017（「健康ふくい21」.福井市）：市民への健康・運動のアドバイス等 健康運動指導者研究交流会. 研究発表：「職域に於けるメタボリックシンドローム発症の生活習慣因子の影響」. 静岡（2017年11月）

## 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
学科カリキュラム検討委員会（2017年~2019年） 1学年担任（2019年） 学科入試委員会（2017年,2018年） 入学試験本部会（2017年,2018年） 入試制度検討委員会（2018年,2019年度）
(3)学内行事への参加
白樺際 入試関連業務に関わる行事（センター試験、選抜・推薦入試、オープンキャンパス等）
(4)その他、自発的活動など
NPO 法人日本健康運動指導士会 福井県支部単位認定研修会参加 福井大学医学部協力研究員